



# 研究主題 「言語活動の充実を図り、 楽しく伝え合う外国語授業の研究」

～英語で自分の思いを伝え、進んでコミュニケーションを図る児童の育成～  
令和7年1月29日（水）



## 教育長挨拶

上尾市教育委員会 教育長 西倉 剛

東小学校におかれましては、令和5・6年度上尾市教育委員会の委嘱を受け、「言語活動の充実を図り、楽しく伝え合う外国語授業の研究～英語で自分の思いを伝え、進んでコミュニケーションを図る児童の育成～」を研究主題に掲げ、外国語科・外国語活動・英語活動における学習指導の研究に取り組まれました。このたび、研究の成果を発表されますことに心から敬意を表します。

さて、学習指導要領では、外国語科・外国語活動それぞれの目標に、言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成することが記されております。

このような中、本校におかれましては、言語活動の4要素「目標や必然性、相手意識、本物であること、楽しさ」を意識した課題設定を行うことで、自分の思いを伝えたいという意欲の向上につながられました。また、「学習の流れの改善」、「学習の定着を図ること」「他者とつながる場の設定」等の工夫に学校全体で取り組み、研究を推進されました。

本校が取り組まれたこれらの研究は、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことにつながるものであり、本市の学習指導の充実にご寄与するものと期待しております。

結びに、御指導を賜りました指導者の方々、御支援をいただきました保護者・地域の皆様に厚くお礼申し上げます。また、赤羽校長先生をはじめ、教職員の皆様の熱心な研究への取組に対し、感謝申し上げますとともに、東小学校のますますの発展を祈念し、挨拶いたします。



## 校長挨拶

上尾市立東小学校 校長 赤羽 洋治

本校は、令和5・6年度の2年間に渡り、上尾市教育委員会からの研究委嘱を受け、研究主題「言語活動の充実を図り、楽しく伝え合う外国語授業の研究」のもと、「英語で自分の思いを伝え、進んでコミュニケーションを図る児童の育成」に向けて研究を深めてまいりました。

本研究では、2つの仮説を立て、研究実践を行いました。「相手とつながる楽しさを味わう」ことができるよう、言語活動の4要素「目標や必然性」「相手意識」「本物であること」「楽しさ」を教師が意識して設定すること。そして、「既習事項の定着を図る」ことができるよう、導入において既習事項を繰り返し練習し、定着を図ったり、本時の言語活動につながるSmall Talkを充実させたりしました。また、東小スタンダードを作成し、授業の流れを統一することで、教師が安定した授業を創るとともに、児童は安心して学習活動に取り組めるようになりました。

この研究を通し、成果として、英語・外国語の授業が「好き」「分かる」、「英語で進んで話している」と答える児童が増えたことが挙げられます。今後も、友達とのやり取りを「進んで」「楽しく」取り組むことができるよう、さらに授業を改善していくことで、上尾市の「グローバル化に対応する教育」の一端を担う活動を推進してまいります。

結びに、本校の研究推進にあたりまして、分かりやすく丁寧な御指導を賜りました埼玉県教育局南部教育事務所学力向上担当指導主事 廣川 孝司 様、上尾市立原市小学校 校長 松澤 歩 様、並びに上尾市教育委員会指導主事の皆様には、快く御指導をお引き受けいただくとともに、分かりやすく丁寧な御指導・御支援をいただきました。諸先生方に、教職員一同心から御礼申し上げます、挨拶いたします。

# 研究概要

令和5・6年度上尾市教育委員会委嘱「学習指導」

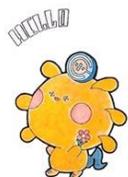
## 研究主題

### 「言語活動の充実を図り、 楽しく伝え合う外国語授業の研究」

～英語で自分の思いを伝え、進んでコミュニケーションを図る児童の育成～



## 上尾市立東小学校



東小マスコットキャラクター  
ひがまる

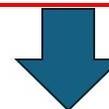
## 研究主題の根幹【学習指導要領】

外国語科の目標

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。」

外国語活動の目標

「外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。」



## 「言語活動の充実」

## 児童の実態

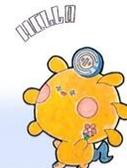
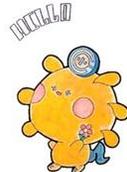
- 外国籍の児童が多い  
就学前から英語を習っている児童もいる  
→英語学習において、個人差が大きい
- 令和5年度上尾市小・中学校学力調査の結果  
→どの学年でも、自分の気持ちや考えを表現することが苦手
- 令和4年度 児童アンケート結果  
→英語の授業が好き（「どちらかというとき」を含む）86%  
→英語の授業で進んで話している（「どちらかというとき話している」を含む）82%

- ・安心して取り組める授業展開
- ・外国語で伝え合う必要感のある課題設定
- ・語彙や表現の指導

楽しさ

安心感

達成感



# 目指す児童像

学校教育目標 「笑顔かがやく 東っ子」

○じっくりと考える子 ○相手を思いやる子 ○心と体をきたえる子

目指す学校像 「信頼を高める学校」

○たくさんの成功体験で子供を笑顔にする学校 ○安全・安心を確保する学校  
○保護者や地域の期待に応える学校

目指す児童像

「笑顔いっぱい 東っ子」

○自分自身で考え行動する児童 ○心豊かで思いやる児童 ○健康な生活を送る児童

本研究で目指す児童像

「英語で自分の思いを伝え、進んでコミュニケーションを図る児童」

# 研究主題

## 楽しく伝え合う



- 学んだ英語を使って、相手に伝えられた。
- 学んだ英語を使って、相手の言うことが分かった。

# 研究仮説 1

言語活動を工夫し、相手とつながる楽しさを味わわせることができれば、進んで自分の思いを伝え合う児童を育成することができるであろう。

## 手立て

- ・東小スタンダードの設定
- ・中間指導の工夫
- ・課題の工夫  
「~のために〇〇しよう。」
- ・他者とつながる場の設定  
(English Dayの設定  
Smile Time, Joy Timeの取組)



# 研究仮説 2

スモールトークや導入を工夫し、既習事項の定着を図ることができれば、進んで自分の思いを表現できる児童を育成することができるであろう。

## 手立て

- ・Greeting での復習
- ・本時の言語活動につながるSmall Talk
- ・既習事項表現集の作成
- ・既習事項の定着のための導入の工夫  
(Song Time, Dance Time, Game, Alphabet Time)



# 研究構造図

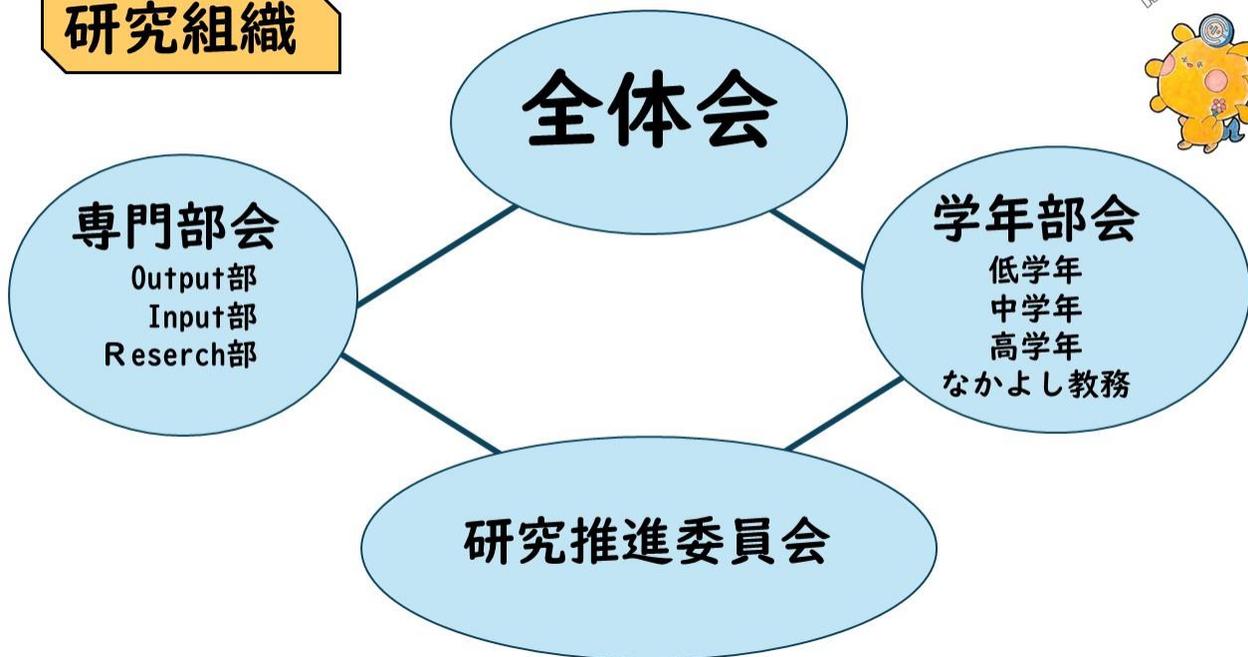
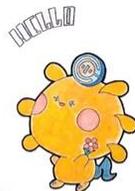
英語で自分の思いを伝え、進んでコミュニケーションを図る児童



研究主題 「言語活動の充実を図り、楽しく伝え合う外国語授業の研究」

～英語で自分の思いを伝え、進んでコミュニケーションを図る児童の育成～

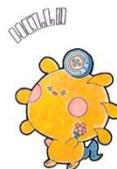
# 研究組織



# 成果と課題

## 成果と課題

児童アンケート結果より



○英語の授業が好きですか  
好き（「どちらかというとき」を含む）  
令和4年度 86.0% → 令和6年度 91.8%  
(+5.8%)

○英語の授業が分かりますか  
（「大体分かる」を含む）  
令和4年度 90.0% → 令和6年度 92.2%  
(+2.2%)

○英語の授業で進んで話していますか  
話している（「大体話している」を含む）  
令和4年度 82.0% → 令和6年度 83.9%  
(+1.9%)

○英語の活動の中で好きな活動  
が「ペアで話し合うこと」の割合  
令和4年度 12.7% → 令和6年度 13.0%  
好きな活動はゲームが一番多く、令和6年度は57.2%

# 成果

## 【児童アンケートから見られた成果】

- 「英語の授業が好き」「大体好き」と答えている児童の割合が5.8%増えた。
- 「英語の授業が分かる」「大体分かる」と答えている児童の割合が2.2%増えた。
- 「英語の授業で進んで話している」「大体話している」と答えている児童の割合が1.9%増えた。

## 【要因】

- ・授業の流れを統一したことにより、児童も教師も安心して、英語の学習に取り組むことができるようになった。
- ・児童にとって、必然性のある課題の設定を工夫し、言語活動に取り組んだ。
- ・スモールトークやゲーム活動の充実により、既習事項の定着を図ることができた。

# 課題

## 【児童アンケートから見られた課題】

- 好きな活動内容「ペアで話し合うこと」の割合の増加が0.3%にとどまった。  
(ゲームを好む児童の割合が高い。)

## 【改善に向けた方策】

- ・さらに、言語活動の4要素（目的や必然性 相手意識 本物であること 楽しさ）を意識した課題設定を工夫する必要がある。
- ・中間指導において、よりよいコミュニケーションにつながる指導や個に応じた練習の場を設定する必要がある。

# アウトプット部

## 授業づくり

- ①学習指導案の形式を検討し、校内の研究を進めていく上で、統一した形になるようにする。
- ②授業の流れや手立ての大枠を決めることで、系統的に学習指導が進められるようにする。
- ③研究授業へ向けて指導案の検討を行うことで、校内で同じ方向性で学習指導ができるようにする。

### 指導案形式



上尾市の指導案形式をもとに作成した。基となる指導案に、「本単元における言語活動」と「学校研究課題との関連等」を入れ、活動が明確になるようにした。統一した指導案を作成することで、私たち教師が、指導の目的をはっきり確認できるようになった。また、「指導と評価の計画」を明記した。計画をすることで、児童の実態に合わせて、単元全体の流れや学習内容を考え、単元の授業を教師が組み立てることができるようになった。また、指導案を統一したことで、どの教師も共通理解をもって授業展開できるようになった。

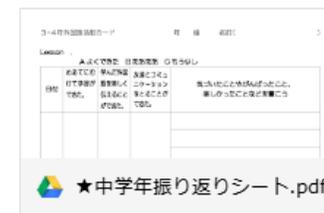
### 東小STANDARD (授業の流れ)

児童の活動	指導者の活動 ○指導のねらい等
<b>○Greetings</b> 挨拶をする。	・全体に挨拶する。 Let's start today's English class. Good morning, class. How are you? I'm fine.
<b>○About Today</b> 質問に答える。	・全体に質問する。 How is the weather? What day is it today? What is the date today?
<b>○Alphabet time</b>	○英語を振ったり、書いたりする基礎となる力を育てる活動を行う。 低・Alphabet song 中・簡単なフォニックス 高・書き写し
<b>○Song time</b>	・PCを操作して音楽をかけ、児童と一緒に歌う。
<b>○Dance time</b>	
<b>○Small Talk</b>	・会話の内容について考える。

授業の流れを1年生から6年生まで通して示すことで、子供にも教師にも学習のリズムができ、英語学習へのハードルを下げる事ができた。

また、Alphabet Timeでは低学年・中学年・高学年と発達の段階に応じた課題を提示することにより、系統立った学びの機会をつくる事ができた。

## 外国語振り返りカード



## Smile Time, English Dayの計画



毎週水曜日をEnglish Dayとして、どの教科でもclassroom englishを使用する日とした。また、休み時間にALTや教職員に英語で話しかけ、発達の段階にあった会話をする事で教師のサインを集めるSmile Timeを実施した。

児童の英語への意欲付けを行うとともに、教職員の中でも積極的にclassroom englishを使うきっかけとなった。

### 既習表現集

1年生から6年生までの表現について、中学校区でも話し合い、表現集を作成することで、小中を通した系統性の一貫を図った。

### CAN-DOリスト



# インプット部

## 英語に触れる環境づくり

- ① 毎週水曜日にスマイルタイムを実施する。
- ② 英語の掲示物を作成し階段や特別教室等に掲示する。
- ③ 放送委員の放送内容や英語による読み聞かせの音源を用意する。

### ① SmileTime の実施

毎週水曜日にアウトプット部で実施している English Day に合わせて Smile Time を実施した。

ALT や教職員と英語による簡単な挨拶を通して、児童が耳で英語に触れる機会を設けることで、英語に慣れ親しむことができるようにした。ALT だけでなく担任等も対象とすることで英語によるコミュニケーションの機会を増やし、人によって発音のアクセントが違うことにも気付かせることができるようにした。



### ② 英語表記の掲示物の作成・掲示

階段にアルファベットや天気等の掲示物を掲示した。また、特別教室の扉にも英語による表示を行ったり、学校ロータリーに看板を設置したりした。

他の取組と合わせて、耳だけでなく視覚的にも英語に触れる機会をつくった。



### ③ 放送委員の放送や英語の読み聞かせ音源

お昼の放送に行われている放送委員の放送の内容に簡単な英語を組み込んだ。また、朝読書の時間や雨の日の休み時間等に全職員が自由に使える日本や海外の昔話などの音源を用意した。

週に1~2時間の外国語の授業以外で英語に触れる機会をつくることで、児童が英語に慣れ親しむ機会を増やすことができた。

時刻	放送原稿	音源
12:25 (12:15)	手洗いのソングを流す	手洗いのソング
12:35 (12:25)	「Let's start the lunch time broadcast.」 これから、お昼の放送をはじめます。 みなさん、給食の準備はできましたか？ まだのクラスは、みんなで協力して速く給食の準備をしましょう。 太陽から受ける自然の恵みと、給食ができるまでにたずさわってくれた多くの人に感謝しましょう。  これから、今月の歌をお送りします。今月の歌は「静かに聞きましょう。」です。	今月の歌
12:50 (12:45)	「Let's enjoy today's lunch.」 今日好き嫌いしないで、おいしくいただきますよ。  「Lunch time is over.」 給食の時間も終わりになります。 今日のこんだてはいかがでしたか？ おいしく、残さず食べられましたか？ 「ごちそうさま」をしたら、後片付けも、手早くしっかりやりましょう。 後片付けが終わったら、ハミガキをしましょう。これでお昼の放送も終わりにします。	
13:00 (12:50)	歯磨きタイムの時間になりました。タオルを口にあて、ハミガキをしましょう。 「Let's brush our teeth.」 歯みがきミュージックを流す。	歯みがきミュージック

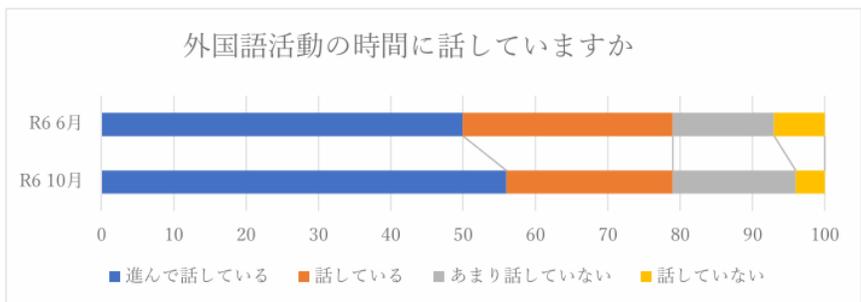
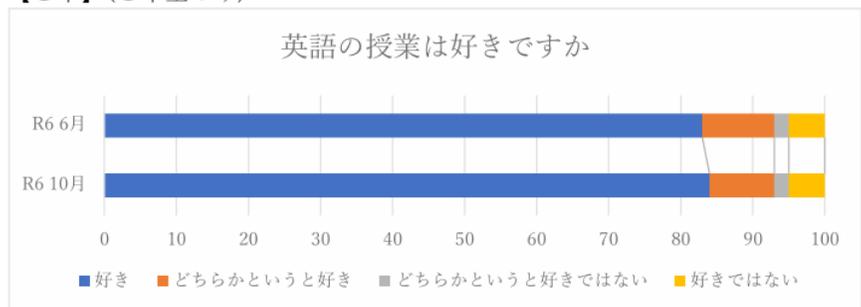
# リサーチ部

## 実態把握

①アンケートの立案、集計、考察を行うことで、本校の実態を把握する。

②データ管理を行い、比較や検討を行い、研究の妥当性を判断する。

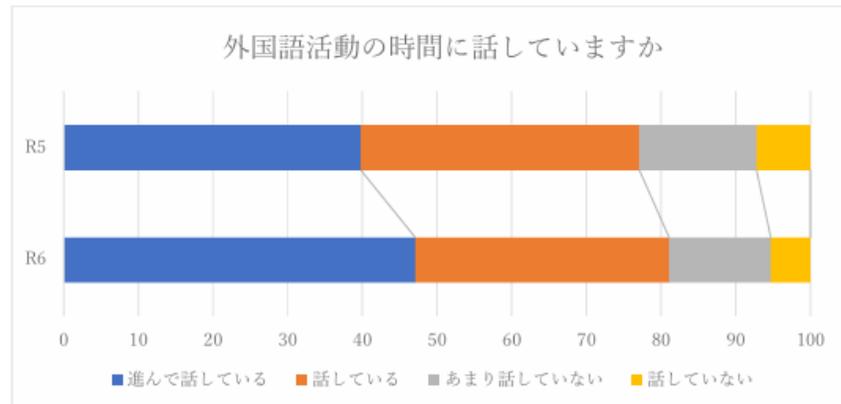
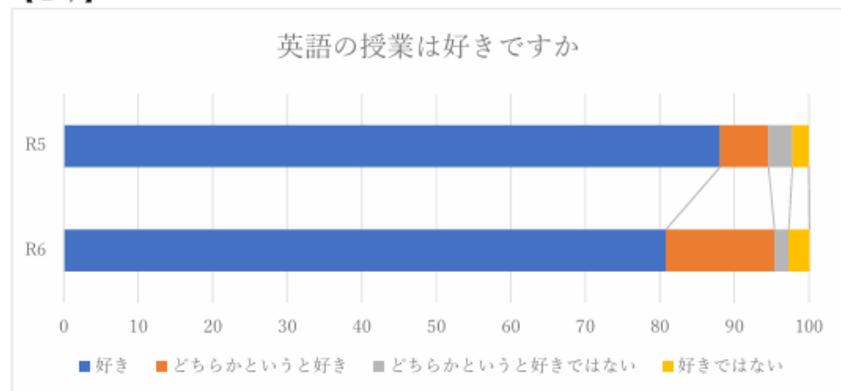
【1年】（1年生のみ）



6月に比べ、「好き」と答えた児童の割合が増えたものの、全体的には大きな変化が見られなかった。「好き」と「どちらかと言うと好き」を合わせた児童の割合は90%を超えており、楽しみながら取り組んでいると考えられる。

また、6月に比べ、「進んで話している」の割合が増えたことから、より意欲的に活動に取り組んでいることが分かる。また、6月に「話していない」と答えていた児童が10月では「あまり話していない」に変わっており、少し授業に慣れ、授業に参加している姿勢が見られる。

【2年】



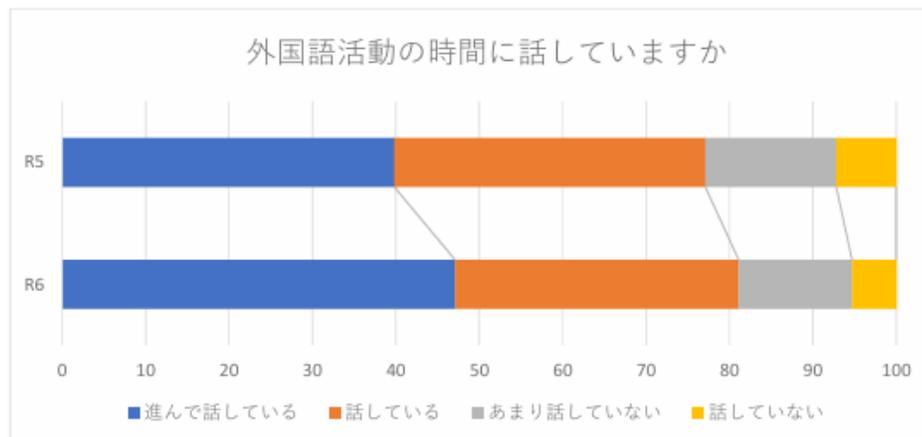
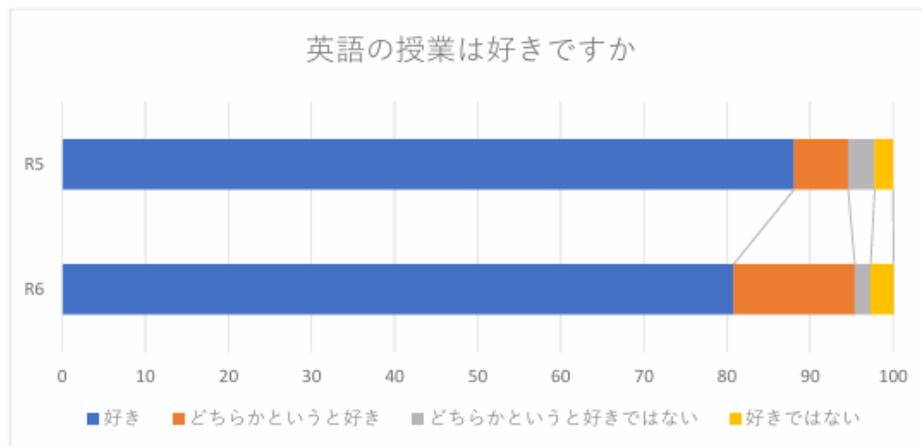
【考察】

昨年度に比べ、「好き」と「どちらかと言うと好き」を合わせた児童の割合が増えた。「好き」が回答した児童の割合が減少し、「どちらかというと好き」の割合が増加したが、使用語彙が増えたことと、やり取りが増えたためだと考えられる。

また、「どちらかと言えば好きではない」「好きではない」の割合が減少したことから、多くの児童が楽しんで英語活動を行うことができていると考える。

昨年度に比べ、「進んで話している」の割合が増えたことから、既習事項を使った表現方法が身に付いていると考えられる。さらに、「あまり話していない」「話していない」の割合が減った。英語を使ったやり取り自体に苦手意識はないと考えられる。

### 【3年】

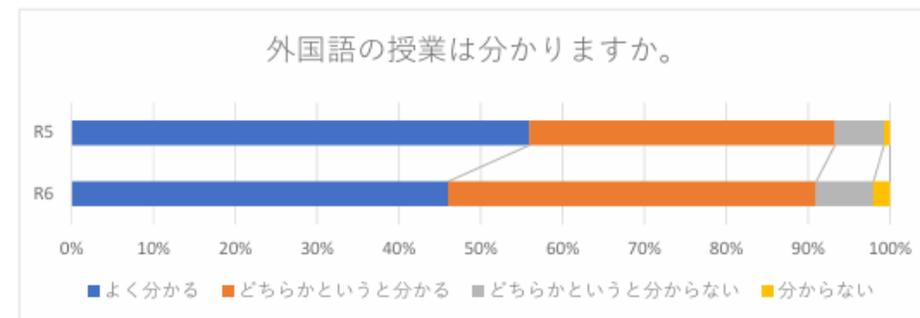
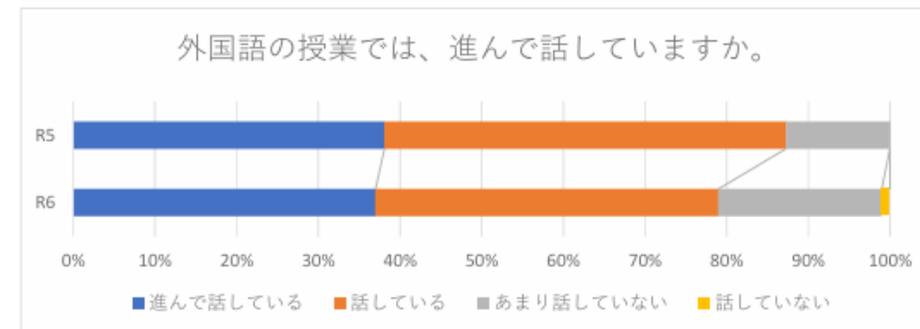
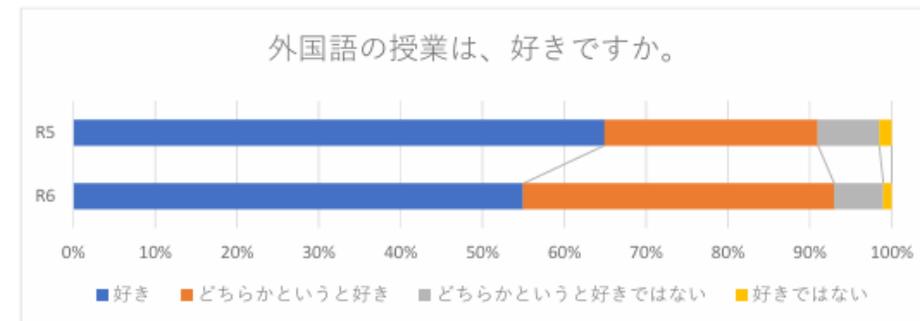


### 【考察】

昨年度に比べ「好き」と答えた児童の割合が減少したが、「好き」と「どちらかと言うと好き」を合わせた児童の割合が増えた。低学年の時と違い、副読本を使用した授業となり、内容が難しくなっているため、「好き」と感じている児童が減り、「どちらかという好き」の回答になっているのではないかと考えられる。全体的には英語が好きな児童が増えている。

また、昨年度に比べ、「進んで話している」「話している」の割合が増えており、3年生が意欲的に外国語の授業に取り組んでいることが分かる。低学年での既習事項が3年生での学習内容にも多く含まれていることから、自信を持って活動に取り組むことができている児童が多いのではないかと考えられる。

### 【4年】

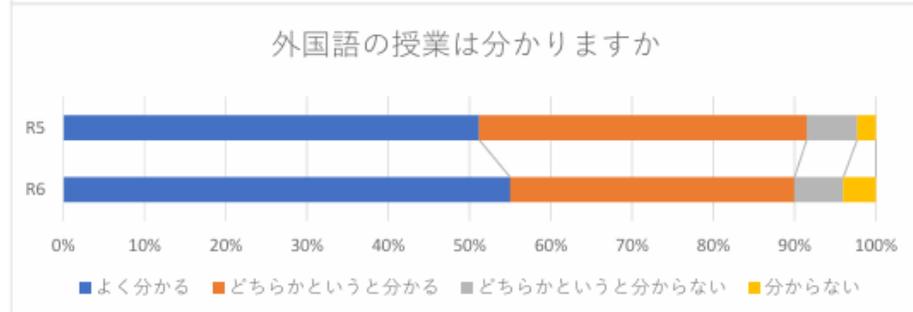
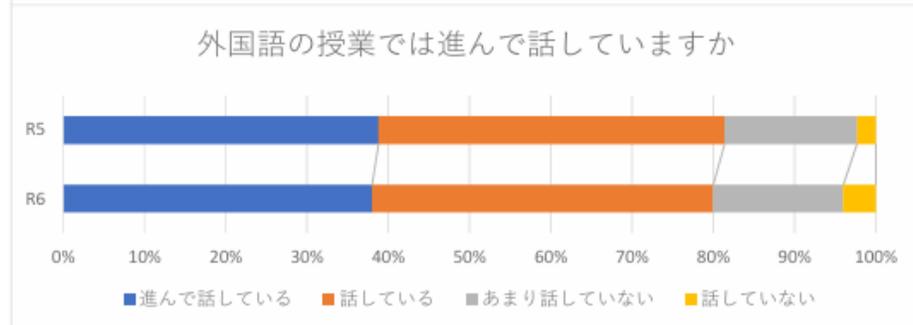
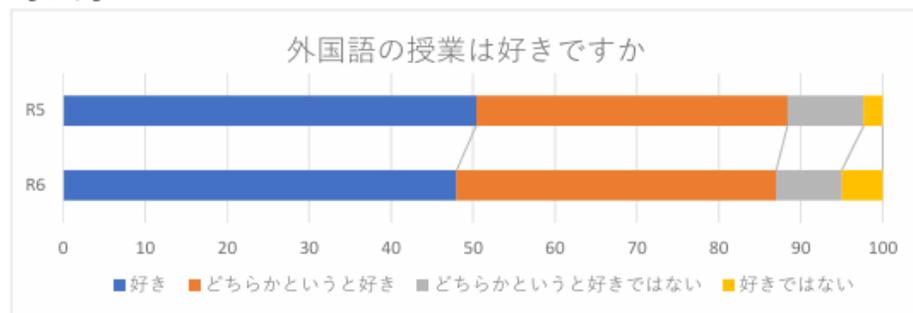


### 【考察】

昨年度に比べ、「好き」と答えた児童の割合が減少したが、「好き」と「どちらかと言うと好き」を合わせた児童の割合が増えており、4年生でも90%以上の児童が外国語の授業に対して前向きであることが分かる。

しかし、昨年度に比べ、「進んで話している」「話している」の割合が減少し、「あまり話していない」の割合が大きく増加している。全体的に好きと思っている児童が増えているが、学年が上がり、話す活動に抵抗を感じている児童が増えている結果だと考えられる。話す活動を単体で行うのではなく、ゲームなどと組み合わせ、話したいと思えるような取組を行うことが課題だと考えられる。

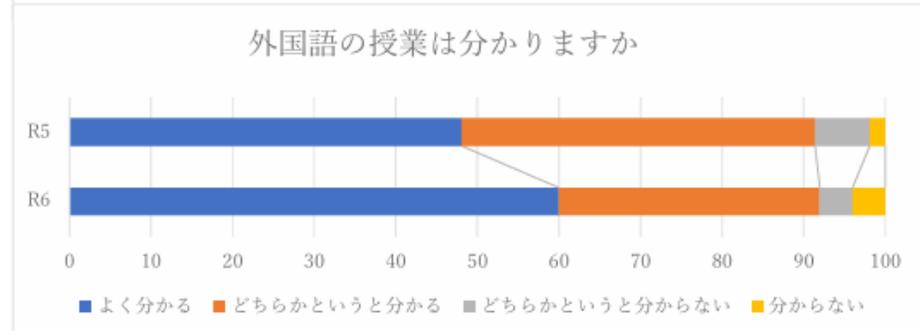
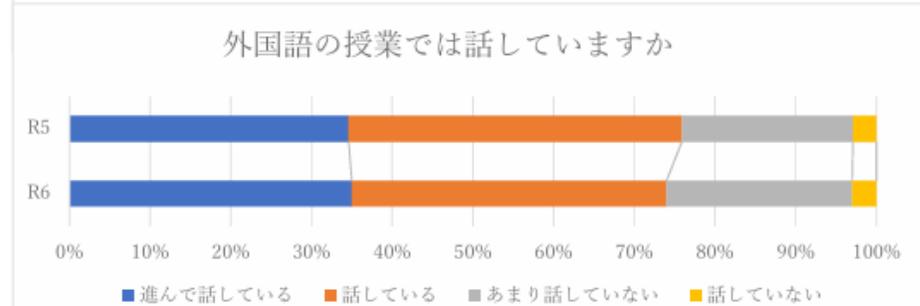
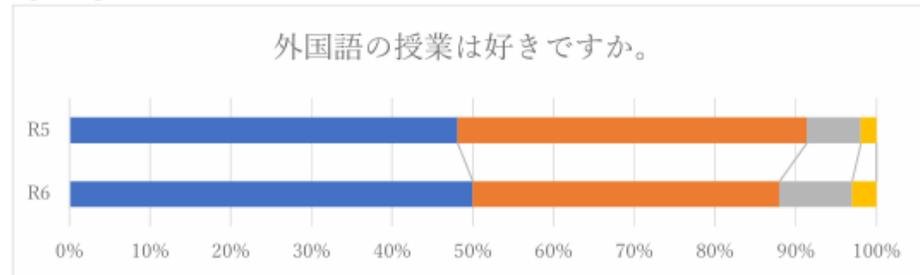
## 【5年】



### 【考察】

昨年度に比べ、「外国語の授業が好き」「外国語の授業で話している」と答えている児童はやや減少しているものの、全体的に昨年度と大きな変化は見られなかった。5年生になり、週2時間の授業となっているが、昨年度と同様の回答をする児童が多い傾向が見られる。その一方で、「外国語の授業は分かりますか」という質問に対して、「よく分かる」と回答した児童の割合は増加しており、「よく分かる」「どちらかという分かる」と答えた児童は9割ほどおり、授業内容の理解度は高いと考えられる。1年生から4年生までに学習した内容も踏まえ、理解度は高いが、興味・関心、意欲の面ではやや下がってきているところもあるので、学年が上がるにつれて、活動内容の工夫が必要だと考えられる。

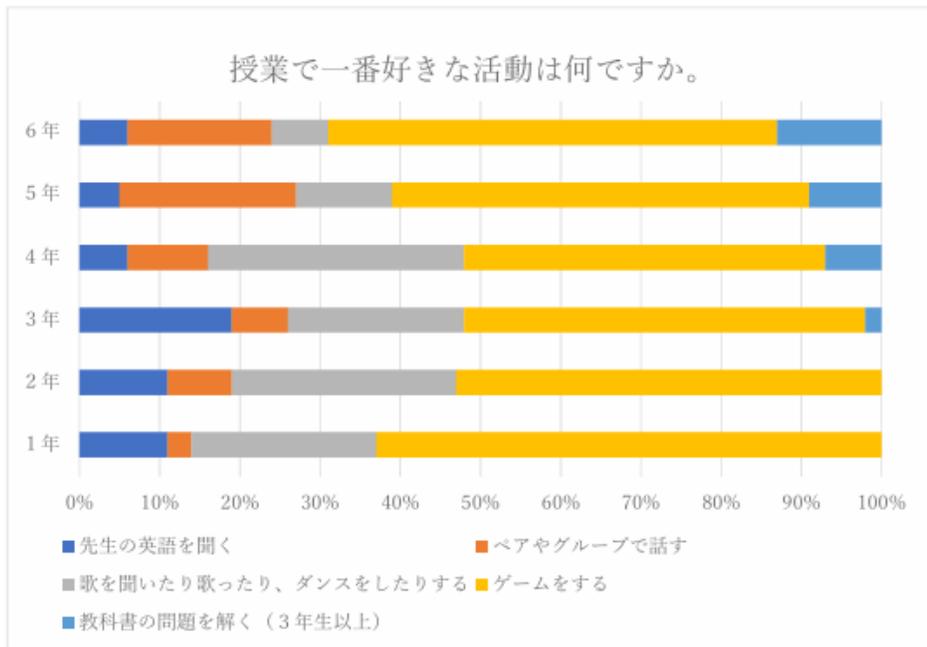
## 【6年】



### 【考察】

6年生は、昨年度に比べ、「外国語の授業が好き」と答えた児童が少し増えたが、「どちらかという好きではない」「好きではない」と感じている児童も増えている。また、「外国語の授業では話していますか」に対し、25%以上の児童が話していない方に回答している。その一方で「外国語の授業は分かりますか」に対し、「よく分かる」と答えた児童は60%、「どちらかという分かる」も含めると90%以上の児童が分かると答えている。授業の内容は理解しているものの、英語で話すことへの抵抗や話すことへの苦手意識、さらに難易度が上がることでうまく話せない、話したくないと感じている児童もいることが考えられる。話すことへの抵抗感を減らすために活動の工夫や話すことに苦手意識を持っている児童への支援をより進めていく必要があると考えられる。

## 【全体の考察】



「授業で一番好きな活動は何ですか」という質問に対して、全学年を通して、「ゲームをする」の回答が多かった。ゲーム要素を取り入れた活動を取り入れることで児童が主体的に授業に参加する意欲が高まると考えられる。

また、1年生～4年生は歌を聞いたり歌ったり、ダンスをしたりする活動が好きと答えた児童の割合も多かった。低学年、中学年では、英語の歌に合わせて歌ったり、ダンスをしたりしながら英語の発音やリズムなどを楽しんで学習している。

さらに学年が上がるにつれて、ペアやグループで話す活動が好きと答える児童の割合が増えており、授業改善により意識的にコミュニケーションを図る活動を取り入れてきたことにより、児童の中にも話すことに対して意欲的な児童が増えてきていることが分かる。また、1年生から繰り返し同じ表現やワードを使うことで、知識が定着し、話すことが好きと感じる児童が増えるのではないかと考えられる。

また、3年生からは副読本、教科書を使用しており、教科書の問題を解くことが好きと答える児童の割合が増えている。外国語の授業で話していると答える児童の割合が増えてきているが、学年が上がるにつれて話すことに対して恥ずかしさや抵抗を感じ、コミュニケーション以外の活動で意欲的に取り組んでいることが分かった。